



ひめゆり平和新館資料館

資料館だより



第50号
2012.11.30

目次

- 資料館だより 50号によせて…………… 1
- 資料館トピックス…………… 2
 - アニメ「ひめゆり」完成／夏休み戦争体験講話とアニメ上映会
 - ／日本平和学会シンポジウム参加／第5回ひめゆりガイド講習会開催／ひめゆり教員向け講習会開催／平和研究会開催（第5回、第6回）／平和のための博物館市民ネットワーク全国交流会参加／資料集5『生き残ったひめゆり学徒たちー収容所から帰郷へ』刊行／企画展「生き残ったひめゆり学徒たちー収容所から帰郷へー」開催中／証言員の活動記録撮影／本村ツル理事長 沖縄県功労者として表彰される
- 特集 資料館だより 50号全号目次…………… 10
- 本棚（仲程昌徳）…………… 18
- 資料館ガイド…………… 19

資料館だより 50号によせて

館長 島袋 淑子

ひめゆり平和祈念資料館の「資料館だより」50号を発行いたします。思わず「おめでとう」と、ひとり言を言ってしまいました。ほんとうに感激です。

資料館の開館は平成元（1989）年の6月23日でしたので、今年の6月23日で満23年になりました。「資料館だより」は、開館翌年の1990年11月25日に創刊しました。年に2～3回発行してきたので、今月発行されたので50号になります。各号16～20ページでまとめられていますが、内容は、資料館の設立当初から現在まで、ニュースやできごとなどが細かく記録されていて、資料館の日々のあゆみが残されています。読んでいますとその時々感動がよみがえってまいります。

「資料館だより」にはいくつかの連載がございます。特に仲宗根政善先生の日記抄は、次号が待ち遠しくなるくらい、いろいろ考えながら読みました。あらためて先生の足跡をたどることができた思いがいたします。こんなすばらしい貴重な資料を初刊から現在まで連載できたことはとても意義深いことだと思います。

元琉球大学教授の仲程昌徳先生の「本棚」も第1号からずっと続けてくださいました。沖縄戦に関する本の書評をされており、毎号興味深く読みました。先生がこの「資料館だより」に続けて原稿を寄せてくださっていることは、私たちの活動を応援してくださっているものと思い、有り難く思います。

亡き師、亡き学友の生きた証を残したいという元ひめゆり学徒の生存者の強い思いから証言記録「シリーズ証言」としての連載もありました。戦争体験を話すのも書くのもいやだと思っていましたが、生存した私たちは、その事を伝えなければいけない使命があると思うようになりました。「資料館だより」に執筆する機会がなければ、なかなかペンを執ることは難しかったと思います。ひとりひとりが体験談をまとめることができ、生存者の思いはきっと読者の心に届いたと思います。

また、ひめゆり学徒の足跡として「ひめゆり学園」「学徒の戦後」など、調査研究の成果を連載で報告してきました。それらを「資料集」としてまとめて刊行したり、企画展へと発展させた事など、さまざまな活動につながる貴重な冊子であったと思っています。

「声」の欄には、来館者からのお手紙を掲載しております。あらためて読み返しますと、「沖縄で行われた戦争に対する私たちの理解はいかに表面的なものであり、沖縄の人たちの抱いている気持ちとほど遠いものであったかということを感じました。」とか、「自分だけ生き残ってしまったという負い目や申し訳なさを感じることなくこれからも平和を訴え、平和であることのありがたさを語り継いでいって下さい」といったお言葉に、私たちはいつも励まされて来たことを思い出します。

「資料館だより」は、これからも若い職員たちによって発行が続けられていくと思います。本誌が、当館のニュースやできごとを発信し、発展的な活動の媒介となり、みなさま方との交流の架け橋であり続けるよう、この50号を機会に気持ちをあらたにしているところでございます。今後ともみなさまのご支援、ご協力よろしくお願いいたします。



資料館トピックス

◆アニメ「ひめゆり」完成

6月23日、かねてより制作をすすめてきたアニメ「ひめゆり」が完成し、当館多目的ホールにおいて初めての一般上映を行いました。慰霊の日とあって、慰霊祭に訪れたご遺族のほか、県内の家族連れを中心に多くの方々にご覧いただきました。

当館では、開館以来、展示や元ひめゆり学徒による展示室での説明を通して沖縄戦の体験を伝えてきましたが、子どもたちに伝える難しさを感じてきました。小さな子どもたちに沖縄戦の体験を伝える方法はないかを探るなかで、アニメーションを制作することになりました。

アニメは、ひめゆり学徒の学校のすぐ側を通っていた軽便鉄道の電車が走るシーンから始まります。楽しく毎日をおくっているひめゆり学徒たちの学校生活にだんだんと戦争が近づいてくる様子や、陸軍病院での看護活動や壕内の様子、南部への撤退から解散命令を経て、多くの学徒が亡くなり、生き残った学徒が収容されるまでが描かれ、ひめゆり学徒隊の沖縄戦体験を知ることができる内容となっています。負傷兵の傷の様子や、怪我をして置いて行かざるをえなかった学友の姿、アダン林の中を逃げ隠れする様子など、証言だけでは伝えづらかった場面も絵と語りで表現しました。

アニメの制作にあたっては、千葉県在住の美術家の海津研さんに原画と構成を担当していただきました。海津さんは、2008年に「ひめゆりアニメプロジェクト」原画作者募集を行った際に応募していただき、選定させていただいた方です。証言員との戦跡巡りを行い、約50時間にもおよぶ証言ビデオを視聴するなどして、ひめゆり学徒の戦争体験の語りに触れ、絵の制作に当たっていただきました。また、描いた絵をもとに証言員、資料館職員と一緒に、検討、議論を重ねて制作を進めてきました。

ナレーションは、那覇国際高校の安里かれんさん（現琉球大学学生）、挿入歌の合唱を、沖縄尚学高校合唱部とホワイトリリーのみなさん、静岡大学教育学部附属島田中学校に協力していただきました。また、編集制作を、中嶋正夫さん、井上真喜さん、中嶋環さんにご協力いただきました。

6月23日の上映では、子どもだけでなく、大人にも好評をいただき、絵が戦争をよく伝えている、感じることでできるアニメだ、といった声が寄せられました。今後も多くの方々にご覧いただく機会をつくる予定です。



アニメ「ひめゆり」

企画・構成・監修：ひめゆり平和祈念財団

証言員 石川幸子 大見祥子 喜納和子 富村都代子 本村つる 津波古ヒサ 仲里正子 前野喜代 宮良ルリ
上原当美子 島袋淑子 謝花澄枝 新崎昌子 大城信子 知念淑子 宮城喜久子

原画・構成：海津研／ナレーション：安里かれん／合唱：沖縄尚学高等学校合唱部・ホワイトリリー（指揮：比嘉千佳子 ピアノ伴奏：大藪祐歌）、静岡大学教育学部附属島田中学校／題字：本村つる／[制作協力]原画撮影：中嶋環／映像効果・音響：nakajin style／構成・編集：中嶋正夫・井上真喜／制作・著作：公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団

2012年／30分／デジタル

◆夏休み戦争体験講話とアニメ上映会

8月1日～15日、「夏休み・元ひめゆり学徒の戦争体験講話とアニメ『ひめゆり』上映会」を開催しました。

この企画は、通常は予約団体を対象に行なっている当館証言員（ひめゆり学徒生存者）による戦争体験講話を、家族連れなど一般の来館者の方々にも聞いていただこうということで、個人での来館が多い夏休みに開催しています。今年は講話と併せて、6月に完成したばかりのアニメ「ひめゆり」も上映しました。12日間でおおよそ940人、1日平均約80の方がこのイベントに参加されました。

参加者アンケートでは、戦争体験講話については多くの方から「体験者から直接体験談を聞くことができて、とても良い機会になった」「ぜひお元気でこれからもお話を聞かせてください」という感想をいただきました。

アニメ「ひめゆり」は特に小さい子どもがいるご家族連れに好評で、「アニメなのでわかりやすかった。ぜひ多くの子どもたちに観てもらいたい」、「講話で聞いた内容が、絵であらわされていたので、よりわかりやすく頭に入ってきた」といった感想がありました。教員の方からは「学校でぜひ生徒たちに見せたい」といった声も寄せられ、今後の活用の参考となるご意見やご感想をたくさんいただくことができました。



講話を行う証言員

◆日本平和学会シンポジウム参加

6月23、24日の両日、日本平和学会2012年度春期研究大会が沖縄大学で行われました。開催校企画として24日に行われたシンポジウム「沖縄における平和教育の課題と展望」では、当館学芸課長の普天間朝佳がパネリストとして登壇しました。沖縄大学土曜教養講座として一般公開され、全国から集まった研究者だけでなく、多くの市民の参加がありました。加藤彰彦氏（沖縄大学学長）による記念講演、高嶋伸欣氏（琉球大学名誉教授）の基調講演に続けて行われたパネルディスカッションのなかで、普天間は、当館の多くの入館者が沖縄戦と接し、驚きをもって受け止めていることや、入館者の内訳（県内外、一般／学校）など、来館者にとって当館がどのような場となっているかということに加え、当館の継承に関するこれまでの取り組みと今後の課題について報告しました。また、宮城晴美氏（沖縄大学非常勤講師）からは、日本軍「慰安婦」と「集団自決」を例に、沖縄戦をジェンダー分析の視点でみていくことの重要性を指摘した報告があり、北上田源氏（沖縄アメリカンスクール教員）からは、自身の平和ガイドに“なる”経験を分析し、「学び手」が「創り手」になる過程と、平和学習の「創り手」を増やしていくことの重要性を訴える報告がありました。

質疑応答のなかでは、フロアからも学校現場の現状についての報告などもあり、活発に意見がやりとりされました。沖縄における平和教育をめぐる状況を共有する場となりました。



報告の様子

◆第5回 ひめゆりガイド講習会開催

7月21日（土）、当館多目的ホールにおいて、普段から沖縄戦を伝える活動に携わっているガイドのみなさまを対象に、「第5回ひめゆりガイド講習会」を開催しました。58人の参加があり、入社1年目のバスガイドさんから、戦争体験のあるベテランの平和ガイドの方まで、幅広い年代のみなさんが一堂に会しました。

第1部の「ひめゆり平和祈念資料館とひめゆりの塔周辺ガイドツアー」では、参加者を4つのグループに分け、当館学芸員が手分けして塔周辺と展示室のガイドを行いました。

第2部では、「証言員（ひめゆり学徒生存者）との質疑応答」を行いました。参加者からは、「制服のデザインが変わっていくのはなぜでしょうか」「ひめゆり学徒の遺影の下にある人柄について証言しているのはどなたですか」「今の時代に生まれて良かったことはありますか」「庭の花をきれいにすることに何か思いがあるのでしょうか」といった、幅広い質問があり、証言員は、自身の体験とそれに対する自身の気持ちを交えてこたえました。

また、第3部として、6月に完成したばかりのアニメ「ひめゆり」の上映を行いました。

参加者からは、「館内館外とも見落としていた部分を発見できた」「生存者の仲間に対する思いと真摯な態度に直に触れる機会を持てた」といった声が寄せられました。



資料館内ガイドツアー



質問に答える証言員

◆ひめゆり教員向け講習会開催

8月17日、県内の中学・高校教員を対象に「ひめゆり講習会（教員対象）」を開催し、14人が参加しました。目的は、①ひめゆり学徒隊についての理解を深めてもらう、②ひめゆり学徒隊に関するワークショップを紹介し、学校現場での活用をはかる、③現場の教員の方々と意見交換し、今後の連携をはかることでした。

午前は、導入や事前学習のためのワークショップ、午後は元ひめゆり学徒の戦争体験講話（宮城喜久子新規事業室室長）、資料館見学、事後学習のためのワークショップ、参加者の意見交換を行いました。

講話について参加者から「活字ではなく、生きた言葉が聞ける本当に良い機会だった」「心の中に響いた。私なりに生徒たちに伝えていきたい」などの感想が寄せられました。ワークショップについては、生徒たちが他の人の意見を聞いて考えを深めることができるよい方法なので、すぐに取り入れたいという意見が多く出されました。

参加者の意見交換では、平和学習に関心はあるがなかなか取り組めていない、どう伝えるか迷いがある、自分自身の学びが必要だと感じる、教員の中にも意識の差があるなどの声がありました。しかし、普段はそういった悩みや情報交換をする場がほとんどないので、この講習会で他の先生方と意見交換ができて本当によかったと喜んでいただきました。

当館では、今後も学校教育との連携をはかり、沖縄戦を伝えるためのさまざまな提案を行いたいと考えています。



◆平和研究会開催（第5回、第6回）

7月9日と10月1日、第5回及び第6回の平和研究会を行いました。

第5回の研究会は関東学院大学経済学部教授の林博史氏が「沖縄戦に関するいくつかの資料と学徒隊の動員をめぐる諸法令」と題して話されました。林氏は、戦時多くの国民が「捕虜になるより死んだほうがいい」と思い込んでいた。その原因は教育だけにあるのではなく、国や軍が計画的に国民に恐怖心を植え付け、自ら「死ななければならない」と思うように仕向けたことにも大きな原因があると史料に基づいて説かれました。また、女子学徒動員の法的根拠については明確ではないが、動員に異議を唱える環境にはなく、正式な手続きが踏まれていないことは問題視すべきだと指摘していました。設立予定の平和研究所についてのいくつかの具体的な示唆もいただきました。

第6回は琉球大学国際沖縄研究所教授の喜納育江氏を招き、「文化的記憶の継承と『語り』そして『読

み』～『ひめゆり』という物語のこれからを考える」というテーマで行われました。「ひめゆりの物語」も含めて、過去の記憶の中には共通の記憶として形成され「文化的記憶」というべきものになるものがある。「文化的記憶」は可変性を持ち、柔軟かつ危ういものであるが、それゆえに力を持つことを話されました。また、沖縄戦体験の継承においては、「語り手」がどう語るかを問うのではなく、「聞き手」が自らの理解や聞き方を自らに問いかけていくべきだという、戦争体験の語り手と聞き手に関する重要な提言がありました。



林 博史氏



喜納育江氏

◆平和のための博物館市民ネットワーク全国交流会参加

10月26日、27日に京都の立命館大学国際平和ミュージアムで行われた、平和のための博物館市民ネットワーク第12回全国交流会に学芸課の普天間と仲田が参加しました。平和博物館に関わる方々が集まり交流する会で、大阪人権博物館と女たちの戦争と平和資料館からの特別報告の他、各館からの活動報告などがありました。当館からは、仲田がアニメ「ひめゆり」の制作、完成を中心に報告しました。アニメを10分程度視聴していただくことができ、多くの方々から好評をいただきました。

また、10月25日に、交流会に先だて、会のオプションツアーとして、丹波マンガン記念館の見学が行われました。同館は、1889（明治22）年から1983（昭和58）年まで90年近く採掘が続けられていたマンガン鉱山の坑道と、展示館からなる平和博物館です。参加者は、李龍植館長の話を伺った後で、館長の案内で坑道、展示の見学を行いました。日本の近代化と戦争遂行にともなって多くの人手が必要になった鉱山では、朝鮮からの多くの強制労働者や被差別部落の人々が過酷な環境で働かされていました。現在は、強制連行、マンガン鉱山労働の歴史を伝える場となっています。実際のその場所に訪れて、館長の説明を聞くことで、歴史的な経緯など詳しく知ることができ、そこで働いていた人々の姿をより想像することができました。



報告の様子

◆資料集5『生き残ったひめゆり学徒たち—收容所から帰郷へ』刊行

6月23日、『ひめゆり平和祈念資料館 資料集5 生き残ったひめゆり学徒たち—收容所から帰郷へ』を刊行しました。

本書は、これまでにあまりとりあげてこなかった、生き残ったひめゆり学徒の「收容後」に焦点をあてたものです。沖縄戦を生き延びたひめゆり学徒が收容所生活をへて、家族に再会するまでの、1年足らずの短い期間の手記と、亡くなった友人の家族をともなって遺骨を拾いに行ったことをまとめた手記、あわせて28編を収めました。

敵につかまってははいけないと思い、ケガを負って苦しむよりは弾に当たって一発で苦しまずに死にたいと願いな

がら身を縮めて戦場を逃げ惑っていたひめゆり学徒たちにとって、生きて米軍に收容されることは、考えてもみないことでした。恐怖と不安のなかで、自分たちだけが捕まったのではないかと心配したり、敵愾心おう盛に米兵に反抗したり、親切にケガの治療をする米兵の姿に驚いたりします。彼女たちは、生き残ったことへの複雑な気持ちを抱え、戸惑いの中にもありましたが、教員養成の沖縄文教学校に通い、家族と再会して、戦後の生活をスタートしました。

また、生き残った生徒たちの中には、亡くなった生徒の家族を案内して、学友の遺骨を拾いに行った者もいます。亡くなった場所がわかっているにもかかわらず、遺骨を拾うことは困難なことでした。手記は、子どもを亡くした親たちの姿も伝えています。

本書には、戦後世代の読者のために、手記をより深く理解するためのコラム17編を収めました。さらに、手記をいろいろな観点から読んでいただけるように、巻末に索引をつけました。

生き残った者にとって、沖縄戦体験には続きがありました。沖縄戦を生き残るといことはどのような経験であったのかを知ることができる1冊となっています。本書が、沖縄戦の理解を深めるものになることを願ってやみません。



『ひめゆり平和祈念資料 資料集5 生き残ったひめゆり学徒たち—收容所から帰郷へ—』
編集・発行 公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立ひめゆり平和祈念資料館

【内容】 グラビア

はじめに

一 沖縄戦とひめゆり学徒隊

二 手記「收容所から帰郷へ」

手記21編 富村都代子／宮良ルリ／世嘉良利子／津波古ヒサ／石川幸子／仲里正子／本村ツル／新崎昌子／新垣世紀子／照屋信子／城間和子／比嘉文子／宮城喜久子／島袋淑子／前野喜代／上原当美子／大見祥子／伊波園子／謝花澄枝／与那覇百子／大城信子

三 手記「学友の遺骨をさがして」

手記7編 翁長安子／宮城喜久子／照屋菊子／安里淑子／上原当美子／島袋淑子／比嘉文子

四 ひめゆりの戦後 —收容所から現在まで—

*解説コラム 17編

資料編

2012年6月23日発行

価格 1,500円

ひめゆり平和祈念資料館にて販売しております。 問い合わせ 098-997-2100

◆企画展「生き残ったひめゆり学徒たち—収容所から帰郷へ—」開催中

11月1日より、2012年度企画展「生き残ったひめゆり学徒たち—収容所から帰郷へ—」を第6展示室にて開催中です。

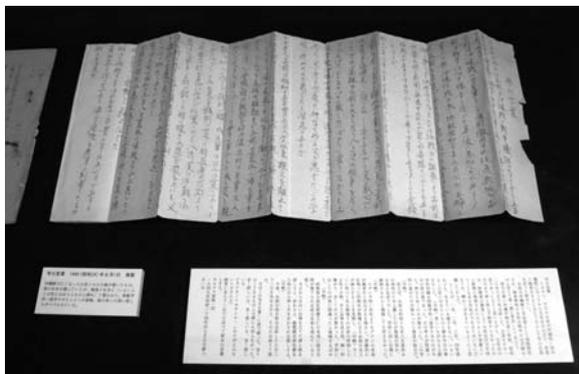
ひめゆり学徒隊の戦争体験についてはよく知られていますが、生き残った学徒たちが、その後どのような経験をしたのかはあまり知られていません。当館では生き残ったひめゆり学徒の「収容後」に焦点を当てた証言集『生き残ったひめゆり学徒たち—収容所から帰郷へ—』を6月23日に刊行しましたが、今回の企画展は、その本を基にしたものです。

収容直後のひめゆり学徒が抱いていた恐怖や混乱した気持ち、収容所での生活、「自分は生き残ってしまった」という自責の念、家族と再会して「生きよう」と思えたこと、教師生活のスタートなど、終戦直後のひめゆり学徒の体験を、パネルや生存者の証言、実物資料などを通して紹介しています。

実物資料として、生存者が収容所で使ったジュラルミンの食器、同窓生の生死を確認するために作成された「昭和20年師範女子部在校生名簿」、戦後5年目に娘を弔うために書かれた「弔の言葉」などを展示しています。また、孤児院の子どもたちと遊ぶひめゆり学徒の大型写真パネル、収容所の様子を描いたイラストパネル「ひめゆり学徒が送られた収容所の風景（1945年夏）」（画：海津研氏）も設置し、当時の状況をより詳細に知ることができるようにしました。

今回、企画展にあわせて制作したドキュメント映像「生き残ったひめゆり学徒たち」も上映しています。生存者13人の証言を2012年5月から11月にかけて撮影し、約30分にまとめたものです。新たに見つかった収容所でのひめゆり学徒の映像（米軍撮影、沖縄県公文書館蔵）も収録しています。

会場では修学旅行生も含めた多くの方が、熱心に企画展を見学したり、映像を見ている姿が見受けられます。2013年3月31日までの開催です。多くの方のご来場お待ちしております。



展示資料「弔の言葉」



テープカット



参観風景



ドキュメント映像コーナー

◆証言員の活動記録撮影

8月1日～28日に、証言員活動の映像撮影を行いました。当館では、開館当初から、元ひめゆり学徒の証言員による展示室での説明、多目的ホールでの団体向けの講話活動を行ってきましたが、活動のまとまった映像記録を行うことは今回が初めてです。

撮影の際には、多くの来館者に囲まれて話をする姿、小さな子どもに語りかける姿、来館者の質問に応える姿、来館者の話を聞く姿などがみられ、来館者に直接対応する証言員の活動の様子を具体的に記録することができました。



撮影風景

◆本村ツル理事長 沖縄県功労者として表彰される

10月28日、2012年度の沖縄県功労者が発表され、当財団理事長で当館元館長の本村ツルが平和・人権推進部門で表彰されました。「ひめゆり学徒隊生存者として、戦争体験を語り継ぐとともに、ひめゆり平和祈念資料館の設立に奔走し、館長及び運営母体である財団の理事長を歴任し、他の学徒隊生存者とともに同資料館の維持発展に尽力するなど、沖縄県の平和教育の推進に貢献した」として受けたものです。11月3日にパシフィックホテル沖縄で行われた表彰式では、仲井真弘多県知事より表彰状が授与されました。

理事長の本村は、表彰を受けるに当たり、この表彰は資料館の活動の功績に対してのもので、資料館建設に奔走した同窓生や共に資料館活動を行ってきた生存者のみんなが受けるものであるとして、この表彰をみなで分かち合いたいとの考えを示しています。

また、今回は、ひめゆり同窓会の同窓生で元橘餅・冬瓜漬製造職人の謝花澄子さん（一高女昭和19年卒）も、伝統銘菓の製造技法を守り継ぎ菓子製造に努めたとして、産業振興部門で表彰されました。



特集 資料館だより 50号 全号目次

※「本棚」は、便宜上、連載回数を（ ）で示した。	
※巻号、刊行日の後ろの（ ）は表紙写真の内容を表す。	
※原本のあきらかな誤字は訂正した。	
◆ 創刊号 1990年11月23日（資料館入口）	
資料館トピックス……………1	
「いはまくら…」歌碑新たに建立／平和を祈る原点として(嶺井百合子)	
沖縄タイムス文化賞受賞！／平和教育の場（新島正子）	
開館一周年記念特別展「ひめゆりの青春」＝遺された手紙＝……………3	
陸軍習志野学校に在学中の兄へ当てた手紙（安富祖嘉子）	
疎開先の家族へ当てた手紙（新里キサ）	
シリーズ証言Ⅰ カマスを持って骨拾い 翁長安子……………5	
消息“生存者たちは今”……………6	
ひめゆりの塔……………7	
仲宗根政善日記抄（1）……………9	
本棚（1）公式ガイドブック ひめゆり平和祈念資料館 仲程昌徳……………11	
感想文集「ひめゆり」第一号……………12	
入館者状況……………13	
声 白井勝利／臼井隆志……………14	
資料館ガイド 公式ガイドブック発行／案内……………15	
◆ 第2号 1991年6月9日（中庭）	
資料館トピックス……………1	
入館者100万人目を迎える！	
千羽鶴献納堂完成	
動向……………2	
ひめゆり平和祈念資料館 開館2周年記念行事 戦跡めぐり—ひめゆり学徒隊の足あと—……………3	
雨の中での追体験／ひめゆり学園跡を出発して……………5	
記念行事参加者感想……………7	
シリーズ証言Ⅱ 岩にもたれた三つ編みの白骨 宮城喜久子……………9	
仲宗根政善日記抄（2）……………11	
本棚（2）墓碑銘—亡き師亡き友に捧ぐ— 仲程昌徳……………13	
声 ひめゆり資料館の先生方へ 阿波根昌鴻……………14	
資料館ガイド「別れの曲」／案内……………15	
◆ 第3号 1991年12月23日（証言本を読む来館者）	
資料館トピックス……………1	
ひめゆりの塔構内へ“相思樹”植樹	
緑の少年団 ゆりの根200個をひめゆりの塔構内へ	
多目的ホール増築“語り部”の講話。映写の実施	
新生「慰霊の日」1991年6月23日……………3	
祭文 嶺井百合子	
追悼のことば 宮良ルリ	
広島・長崎視察研修……………5	
広島・長崎に学ぶ 視察研修……………7	
シリーズ証言Ⅲ 頭骨に祈る母 照屋菊子……………9	
仲宗根政善日記抄（3）……………11	
本棚（3）「ひめゆり女師・一高女沿革誌」「ひめゆり女師・一高女写真集」 仲程昌徳……………13	
声 三宅由里子……………14	
資料館ガイド 「公式ガイドブック ひめゆり平和祈念資料館」点字版貸出／案内……………15	
◆ 第4号 1992年6月6日（展示を見学する来館者）	
資料館トピックス……………1	
儀間真一氏の顕彰碑建立	
相思樹植樹の碑を建立	
ひめゆりの塔敷地内の整備終わる	
具志川商業高校生徒会が鎮魂の折り鶴を寄贈	
県外の大学生が「師範学校の皇民化教育」テーマに卒論	
特集・多目的ホール 多目的ホール落成……………4	
多目的ホールの建設について 嶺井百合子	
[見取り図、概要]	
開館3周年に「証言フィルム」を上映	
講話のほかに証言フィルムの上映も	
シリーズ証言Ⅳ 母の元に帰った遺骨 安里淑子……………9	
仲宗根政善日記抄（4）……………11	
本棚（4）宮良ルリ著『私のひめゆり戦記』 仲程昌徳……………13	
声 安西玲子……………14	
資料館ガイド 慰霊の日は小・中・高校生の入館料が無料になります／案内……………15	
◆ 第5号 1992年12月23日（多目的ホール）	
資料館トピックス……………1	
200万人目の入館者を迎える／萩原国男さんからの便り	
「菊池寛賞」受賞	
嶺井百合子・ひめゆり同窓会会長 源ゆき子・ひめゆり同窓会前会長等に「県功労者」表彰	
仲宗根政善館長に西日本文化賞	
伊原第三外科壕（ひめゆりの塔のガマ）の保存調査始まる	
シリーズ「ひめゆり学徒の足跡」 第1回 動員当夜……………4	
シリーズ「ひめゆり学園」①通史編……………5	
ひめゆり学徒 思い出のアルバム……………7	
シリーズ証言Ⅴ 母と子の無言の再会も空しく 上原当美子……………9	

仲宗根政善日記抄 (5)	11
本棚 (5) 伊波園子著『ひめゆりの沖縄戦一少女は嵐のなかを生きた』 仲程昌徳	13
声 園山俊彦	14
資料館ガイド 資料館販売資料/案内	15
◆第6号 1993年5月23日 (感想文を読む子ども)	
資料館トピックス	1
第3回戦跡めぐり—ひめゆり学徒隊の足あと—行われる 天皇、皇后両陛下 ご来館される JR東日本労働組合が1万本のボールペンをご寄贈 資料館の管理道路が完成	
シリーズ「ひめゆり学徒隊の足跡」第2回 南風原の沖縄 陸軍病院壕	3
シリーズ 「ひめゆり学園」②学園風景	5
シリーズ証言VI 幸ちゃん、迎えに来たよ 島袋淑子	7
仲宗根政善日記抄 (6)	9
資料館ガイド 資料館頒布資料 (非売品) /案内	11
◆第7号 1993年9月23日 (感想を書く子ども)	
資料館トピックス	1
ひめゆりの塔慰霊祭行われる 慰霊の日は、今年から大人も無料に ひめゆりの塔ガマの調査終わる 感想文集第4号掲載者からのお便り	
シリーズ「ひめゆり学徒隊の足跡」第3回 陸軍病院各分 室	3
シリーズ 「ひめゆり学園」③ 授業編	5
シリーズ証言VII「清子、一緒に家に帰ろうね」 比嘉文 子	7
仲宗根政善日記抄 (7)	9
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き/案内	11
◆第8号 1994年1月23日 (遺影を見る生徒)	
資料館トピックス	1
300万人目は、岩手県の女子高校生 開館5周年の節目に 展示物の英語解説文を整備 秋篠宮ご夫妻、ご来館される	
シリーズ「ひめゆり学徒隊の足跡」第4回 南部撤退	33
シリーズ 「ひめゆり学園」④学園生活編 (寮生活を中 心に)	5
ひめゆり学徒 思い出のアルバム (2) 学園生活 (寮生活 を中心に)	7
シリーズ証言VIII・疎開 学友たちに別れも告げずに 喜 納和子	9
仲宗根政善日記抄 (8)	11
本棚 (6) 野里洋『汚名—第二十六代沖縄県知事 泉守 紀』 仲程昌徳	13
声 山田有咲	14
資料館ガイド 第4回戦跡めぐりのご案内/案内	15

◆第9号 1994年5月23日 (遺影を見る来館者)	
資料館トピックス	1
埼玉県—ひめゆり、平和の交流実現 開館5周年記念座談会「次の世代へ平和をどう伝えてい くか」開催される 第4回戦跡めぐり—ひめゆり学徒隊のあしあと—行われ る シリーズ「ひめゆり学徒隊の足跡」第5回 解散命令	3
シリーズ 「ひめゆり学園」⑤乙女の素顔編	5
シリーズ証言IX・疎開 自分の島を捨てて逃げるのか 福地秀子	9
仲宗根政善日記抄 (9)	11
本棚 (7) 森口韜著『最後の学徒兵 BC級死刑囚・田口 泰正の悲劇』 仲程昌徳	13
声 資料館が旅程にあり、気分が一変 折戸政男	14
資料館ガイド 開館5周年イベント「ひめゆり学徒隊の証 言ビデオ」上映会のお知らせ/案内	15
◆第10号 1994年9月23日 (感想を書く生徒)	
資料館トピックス	1
開館5周年記念イベント「平和への祈り—ひめゆり学徒 の証言—」上映会開催 VTR室の活用始める 戦後49年目ひめゆりの塔慰霊祭行われる	
シリーズ「ひめゆり学徒隊の足跡」第6回 死の彷徨	3
シリーズ 「ひめゆり学園」⑥キーワード編	5
シリーズ証言X・疎開 赤々と燃える村々をただ北へ北 へ 當眞俊子	9
仲宗根政善日記抄 (10)	11
本棚 (8) 親里千津子著『ちーちゃんの沖縄戦』 仲程昌 徳	13
声 私も何かを伝えたいと引き返し… 新垣千重子	14
資料館ガイド 第5展示室回想の間に「結びのこぼし」掲 示/案内	15
◆第11号 1995年1月23日 (証言員の説明を聞く来館者)	
資料館トピックス	1
戦後50年目の平和供養—亡き師・亡き友の仏前で— ひめゆりの塔屋外トイレが新築される	
シリーズ「ひめゆり学徒隊の足跡」第7回 沖縄陸軍病院 動員以外の学徒	2
シリーズ 「ひめゆり学園」⑦思い出のうた編	3
シリーズ証言XI・疎開 激しい空襲のため、泣く泣く家 へ引き返し… 大城智子	9
仲宗根政善日記抄 (11)	11
本棚 (9) 戦後五十年記念作品『ひめゆりの塔』シナリオ 仲程昌徳	13
声 修学旅行を計画して本当によかった 空彰	14

- 資料館ガイド 第5回戦跡めぐりのご案内／案内……………15
- ◆第12号 1995年5月30日（感想を書く来館者）
- 資料館トピックス……………1
- 仲宗根政善館長逝去される
- 400万人目の入館者 —北海道の林さん—
- 第5回戦跡めぐり—ひめゆり学徒隊のあしあと— 行われる
- 仲宗根政善日記抄（12）……………11
- 本棚（10）仲宗根政善歌集『蚊帳のホタル』 仲程昌徳……………13
- 声 仲宗根先生の本を読んで、この地へ… 杉原美由樹……………14
- 資料館ガイド 慰霊の日イベント「平和への祈り—ひめゆり学徒の証言」ビデオ上映会のお知らせ／案内……………15
- ◆第13号 1995年9月26日（子どもたちに説明する島袋淑子）
- 資料館トピックス……………1
- 戦後50年目の仏前供養
- 第50回慰霊祭行われる
- シリーズ「ひめゆり学徒隊の足跡」第8回 収容……………2
- シリーズ証言XII・疎開 教員免許状と命とどちらを選ぶ 謝花澄子……………21
- 資料館ガイド 「ひめゆり学徒の勤務場所と撤退経路図」を設置／案内……………23
- ◆第14号 1996年1月30日（証言員の説明を聞く来館者）
- 資料館トピックス……………1
- ひめゆり平和祈念資料館が国連発行の『世界平和博物館』に掲載される
- シリーズ「ひめゆり学徒隊の足跡」第9回 統計編……………2
- シリーズ「ひめゆり学園」⑧昭和19年のひめゆり学園……………9
- 仲宗根政善日記抄（13）……………15
- 本棚（11）スタンレー・ベネット、加藤恭子／今井萬亀子編訳『戦場から送られた手紙—ある米海軍士官の太平洋戦争』 仲程昌徳……………17
- 資料館ガイド 第6回戦跡めぐりのご案内／案内……………19
- ◆第15号 1996年5月30日（証言員の説明を聞く来館者）
- 資料館トピックス……………1
- 第6回戦跡めぐり—ひめゆり学徒隊のあしあと— 行われる
- シリーズ「ひめゆりの塔の変遷」第1回 ひめゆりの塔建立……………2
- 仲宗根政善日記抄（14）……………8
- 本棚（12）宮城喜久子著『ひめゆりの少女—16歳の戦場』 仲程昌徳……………13
- 声 第6回戦跡めぐりに参加して… 大城美幸……………14
- 資料館ガイド 慰霊の日イベント「平和への祈り—ひめゆり学徒の証言」ビデオ上映会のお知らせ／案内……………15
- ◆第16号 1996年9月30日（証言員の説明を聞く生徒）
- 資料館トピックス……………1
- 入館者、500万人に
- 戦後51年目の慰霊祭行われる
- シリーズ「ひめゆりの塔の変遷」第2回「ひめゆりの塔」が全国的な物語に……………3
- シリーズ証言「学徒の戦後」第1部 収容所から帰郷へ 富村都代子……………14
- 仲宗根政善日記抄（15）……………18
- 本棚（13）なごらん21期生 なごらん同窓会『戦時下の学園記—戦火をくぐって』 仲程昌徳……………21
- 声 文集を読めばきっと勇気が湧いてくる 源田和樹……………22
- 資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………23
- ◆第17号 1997年1月30日（証言員の説明を聞く来館者）
- 資料館トピックス……………1
- 橋本龍太郎首相、ご来館される
- シリーズ「ひめゆりの塔の変遷」第3回 戦後沖縄の激動の中で………………2
- シリーズ証言「学徒の戦後」No.2 収容所から帰郷へ 宮良ルリ……………14
- 仲宗根政善日記抄（16）……………20
- 本棚（14）吉田健正『沖縄戦50年後の証言—米兵は何を見たか』 仲程昌徳……………23
- 声 愛と平和のために死んでいったあなた方に… 古澤拓也……………24
- 資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………25
- ◆第18号 1997年5月30日（証言員の説明を聞く来館者）
- 資料館トピックス……………1
- 収蔵庫新築工事の起工式行われる
- 自家発電機設置される
- シリーズ「ひめゆりの塔の変遷」第4回 悲願の資料館建設……………2
- シリーズ証言「学徒の戦後」No.3 収容所から帰郷へ 世嘉良利子……………19
- 仲宗根政善日記抄（17）……………23
- 本棚（15）白梅同窓会編『平和への道しるべ—白梅学徒看護隊の記録』 仲程昌徳……………25
- 声 教育が人間を造る 青木恵子……………26
- 資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………27
- ◆第19号 1997年9月30日（証言員の説明を聞く来館者）
- 資料館トピックス……………1
- 別館・図書室が新築される
- 儀間真一氏の顕彰碑、建立される
- シリーズ「ひめゆりの塔の変遷」第5回 ひめゆりの戦後年表……………3
- シリーズ証言「学徒の戦後」No.4 収容所から帰郷へ 津波古ヒサ……………14

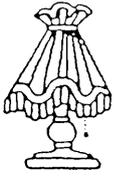
仲宗根政善日記抄 (18) ……………18	シリーズ「沖縄の学徒隊」第3回 師範鉄血勤皇隊 ……3
本棚 (16) 大田静男著『八重山の戦争』 仲程昌徳…21	シリーズ証言「学徒の戦後」No.8 収容所から帰郷へ 新崎昌子 ……………14
声 これからも多くの人々に戦争の恐ろしさ、愚かさを… 田中政江 ……………22	仲宗根政善日記抄 (22) ……………19
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……23	本棚 (20) 龍潭同窓会『龍魂の碑—鉄血勤皇師範隊はいかに戦塵をくぐったか—』 仲程昌徳…21
◆第20号 1998年1月30日 (証言員の説明を聞く来館者)	声 修学旅行から帰ってきた娘の話を聞いて… 滝沢宏枝 ……………22
資料館トピックス……………1	資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……23
亡き仲宗根政善前館長の資料、寄贈される	◆第24号 1999年11月30日 (説明する喜納和子)
シリーズ「ひめゆりの塔の変遷」第6回 ひめゆりの主な本・映画……………2	資料館トピックス……………1
シリーズ証言「学徒の戦後」No.5 収容所から帰郷へ 石川幸子 ……………17	開館10周年記念イベント「沖縄戦の全学徒たち」開催催
仲宗根政善日記抄 (19) ……………19	開館10周年記念イベント「平和祈念コンサート」開催
本棚 (17) 嶺井百合子著『楽ん苦しめん 嶺井百合子回想記』 仲程昌徳……………21	述懐と鎮魂の為の交響詩 ひめゆり 海勢頭豊……………4
声 色々なことを学び、考えた 富士和花 ……………22	シリーズ「沖縄の学徒隊」第4回 一中鉄血勤皇隊・一中通信隊……………5
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……23	シリーズ証言「学徒の戦後」No.9 収容所から帰郷へ 新垣世紀子 ……………16
◆第21号 1998年5月30日 (比嘉文子)	仲宗根政善日記抄 (23) ……………20
資料館トピックス……………1	本棚 (21) 仲田精昌著『島の風景』 仲程昌徳 ……22
開館10周年記念特別展 「沖縄の学徒たち展」への取り組み始まる	資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……23
シリーズ「沖縄の学徒隊」第1回 白梅学徒隊・積徳学徒隊……………2	◆第25号 2000年5月30日 (説明する宮城喜久子)
シリーズ証言「学徒の戦後」No.6 収容所から帰郷へ 仲里正子 ……………14	資料館トピックス……………1
仲宗根政善日記抄 (20) ……………18	『沖縄戦の全学徒たち展 報告書』発行される
本棚 (18) 『沖縄県史 資料編3 米国新聞に見る沖縄戦報道』 仲程昌徳……………21	シリーズ「沖縄の学徒隊」第5回 二中鉄血勤皇隊・通信隊、三中鉄血勤皇隊・通信隊……………2
声 大学へ行くなら沖縄に… 伊藤チエコ ……………22	シリーズ証言「学徒の戦後」No.10 収容所から帰郷へ 照屋信子 ……………15
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……23	仲宗根政善日記抄 (24) ……………19
◆第22号 1998年11月30日 (証言員の説明を聞く来館者)	本棚 (22) 「ひめゆり」をめぐる三つの論考 仲程昌徳 ……………21
資料館トピックス……………1	声 ひめゆりの塔を訪れて 藤田りえ ……………22
第3回世界平和博物館会議の一行ご来館される	資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……23
ひめゆりの塔周辺にユリの球根を植栽	◆第26号 2000年11月30日 (説明する大見祥子)
シリーズ「沖縄の学徒隊」第2回 ずいせん学徒隊・梯梧学徒隊・なごらん学徒隊……………3	資料館トピックス……………1
シリーズ証言「学徒の戦後」No.7 収容所から帰郷へ 本村つる ……………16	各学徒隊生存者懇親会開催される
仲宗根政善日記抄 (21) ……………20	初の博物館実習生 (学芸員実習生) を受け入れる
本棚 (19) ひめゆり同窓会相思樹会『戦争と平和のはざままで—相思樹会の軌跡—』 仲程昌徳……………21	シリーズ「沖縄の学徒隊」第6回 農林鉄血勤皇隊、水産鉄血勤皇隊・通信隊……………2
声 実際に体験された方が語ることの重さ 齋藤和史 ……………22	シリーズ証言「学徒の戦後」No.11 収容所から帰郷へ 城間和子 ……………15
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……23	仲宗根政善日記抄 (25) ……………19
◆第23号 1999年5月30日 (説明する世嘉良利子)	本棚 (23) 昭和高女同窓会編『戦場に生きる—梯梧学徒の体験記』 仲程昌徳 ……………21
資料館トピックス……………1	声 暑さを感じるたび、沖縄を思い出します 佐藤真衣子 ……………22
開館10周年記念イベントの概要決まる	資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……23
各学徒隊関連の地の踏査・撮影行われる	

◆第27号 2001年5月30日 (説明する宮城信子)	シリーズ証言「学徒の戦後」 No.15 収容所から帰郷へ
資料館トピックス……………1	前野喜代 ……………10
2001年度企画展「仲宗根政善～浄魂を抱いた生涯」展の開催を予定	本棚 (27) 宮城巳知子著・成井俊美画『ずいせん学徒の沖縄戦 最前線へ送られた女学生の手記』 仲程昌徳 ……………14
6月に「沖縄戦の学徒たち」展(「沖縄戦の全学徒たち」展より)開催	資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……………15
シリーズ「沖縄の学徒隊」第7回 工業鉄血勤皇隊・通信隊、商工鉄血勤皇隊・通信隊、開南鉄血勤皇隊・通信隊 ……………2	◆第31号 2003年5月31日 (説明する謝花澄枝)
シリーズ証言「学徒の戦後」No.12 収容所から帰郷へ	資料館トピックス……………1
比嘉文子 ……………16	2003(平成15)年度企画展 8月に「ひめゆり学徒の戦後」展を開催
仲宗根政善日記抄(26) ……………20	来年4月に展示リニューアルのための閉館を予定
本棚(24) 船越義彰『小説 遊女たちの戦争 志堅原トミの話から』 仲程昌徳 ……………22	シリーズ証言「学徒の戦後」 No.16 収容所から帰郷へ
声 今回の修学旅行の最大の収穫 鈴木初美 ……………23	上原当美子……………2
◆第28号 2001年11月30日 (説明する前野喜代)	仲宗根政善日記抄(29) ……………6
資料館トピックス……………1	本棚(28) 小林照幸『21世紀のひめゆり』 仲程昌徳 ……………10
2001年度企画展「仲宗根政善～浄魂を抱いた生涯」展を開催	声 「二度と戦争を起こさせない!!」の思いを持ったことが最大の収穫 石川由香 ……………11
「沖縄戦の学徒たち」展(「沖縄戦の全学徒たち」展より)を開催	◆第32号 2003年11月30日 (説明する上原当美子)
シリーズ「沖縄の学徒隊」第8回 離島の学徒隊 ……………2	資料館トピックス……………1
シリーズ証言「学徒の戦後」No.13 収容所から帰郷へ	2003(平成15)年度企画展 「ひめゆり学徒の戦後」を開催
宮城喜久子 ……………15	2003(平成15)年度企画「ひめゆり・ヨーロッパ平和交流の旅」実施
仲宗根政善日記抄(27) ……………19	仲宗根政善日記抄(30) ……………3
本棚(25) 宮城晴美『母の遺したものの沖縄・座間味島「集団自決」の新しい証言』 仲程昌徳 ……………21	本棚(29) 上江田千代『ひめゆり 予科一年生』 仲程昌徳……………5
声 ひめゆりの塔を見学して 坂田政樹 ……………22	声 たくさんのすてきな未来と命をうばった戦争を許せない 杉原史織……………6
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……………23	資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………7
◆第29号 2002年5月30日 (説明する宮良ルリ)	◆第33号 2004年5月30日 (説明する島袋淑子)
資料館トピックス……………1	資料館トピックス……………1
入館者1千万人に	ひめゆり平和祈念資料館リニューアルオープン
シリーズ「沖縄の学徒隊」第9回 男子学徒隊のまとめ ……………2	次世代プロジェクト「戦跡めぐりーひめゆり学徒の足跡」行われる
シリーズ証言「学徒の戦後」No.14 収容所から帰郷へ	仲宗根政善日記抄(31) ……………3
島袋淑子 ……………23	本棚(30) ひめゆり平和祈念資料館編集『ひめゆり学徒の戦後』 仲程昌徳……………5
仲宗根政善日記抄(28) ……………27	声 「戦中と今と私」 小山陸郎……………6
本棚(26) 野坂昭如 戦争童話集沖縄篇『ウミガメと少年』 仲程昌徳 ……………29	資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………7
声 “平穏な日常”がいかに大切か… 根津晴美 ……………30	◆第34号 2004年11月30日 (説明する仲里正子)
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内 ……………31	資料館トピックス……………1
◆第30号 2002年11月30日 (説明する津波古ヒサ)	新ガイドブック発行される
資料館トピックス……………1	ひめゆりの体験を受け継ぐ若い世代の会 「虹の会」が発足
女師・一高女の跡地の碑を建立	仲宗根政善日記抄(32) ……………3
全国知事会議で来沖した知事夫人らがひめゆりの塔を参拝	本棚(31) 『ひめゆり平和祈念資料館』 仲程昌徳……………5
シリーズ沖縄の学徒隊 第10回 女子学徒隊のまとめ ……………2	声 戦争は無意味で愚かしい集団犯罪行為 桐野忠夫……………6

資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………7	仲宗根政善日記抄 (37) ……………4
◆第35号 2005年5月30日 (説明する城間和子)	声 自分には何ができるのだろうか考えた……………6
資料館トピックス……………1	資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………7
本格化する次世代プロジェクト その①ガイダンスの	◆第40号 2007年11月30日 (説明する比嘉文子)
ための関西先進施設の視察、行われる／その②次世代	資料館トピックス……………1
への語り継ぎ方を探求するための県内施設の視察・交	「台湾青年国際活動団体」来館
流、行われる	学芸員実習行われる／学芸員実習レポート (栗国正)
「虹の会」戦跡巡り行われる	入館者1,500万人に
仲宗根政善日記抄 (33) ……………4	県ガイドの会 ひめゆり学徒関連の場で学習会
声 平和な世の中を継続することこそ亡くなった方々へ	「ひめゆり学徒隊のアニメ」製作へ
の供養 大熊一徳……………6	仲宗根政善日記抄 (38) ……………5
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………7	資料館ガイド 資料館ご利用案内／多目的ホール利用の
◆第36号 2005年12月30日 (説明する新崎昌子)	手引き……………7
資料館トピックス……………1	◆第41号 2008年5月31日 (説明する謝花澄枝)
生存者と若い世代の交流会 「虹の会」終了	資料館トピックス……………1
2005年度企画展「沖縄陸軍病院看護婦たちの沖縄戦」	「仲宗根政善先生 誕生百年記念シンポジウム」開催
開催	される
戦後60年朗読「平和への祈り～ひめゆりの伝言～」開	ひめゆり学徒隊生存者と中高生との座談会 (虹の会
催される	主催)
青山学院学内公開フォーラム参加報告	証言員の戦跡めぐり
仲宗根政善日記抄 (34) ……………5	南風原平和ガイド学習会
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………7	県内学校団体の入館が無料に
◆第37号 2006年5月30日 (説明する大城信子)	2008 (平成20) 年度 年間行事予定
資料館トピックス……………1	統計に見る2007年度 ……………5
『青山学院高等部入試問題に関する特集』発行される	ひめゆり研究ノート ①赤心の塔 (普天間朝佳) ……………7
事前学習用映像「『命』って何」が完成	ひめゆり学徒隊の戦跡 No.1 津嘉山の第三十二軍司令部
荒崎海岸・散華の碑への道標を設置	壕 (普天間朝佳) ……………9
仲宗根政善日記抄 (35) ……………4	仲宗根政善日記抄 (39) ……………11
声 15年間生きてきた中で最も心に残る体験 ……………6	本棚 (34) 謝花直美『証言沖縄「集団自決」—慶良間諸
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………7	島で何が起きたか 仲程昌徳 ……………13
◆第38号 2006年11月30日 (説明する与那覇百子)	来館者の一人ひとりが記憶の伝え手に 尾鍋拓美……………14
資料館トピックス……………1	相思樹 県内の生徒たちの見学風景 仲田晃子 ……………14
長編ドキュメンタリー映画「ひめゆり」が完成	声 学ぶ機会を与えてくれる資料館 ……………15
平和のための博物館・市民ネットワーク 第6回全国交	◆第42号 2008年12月31日 (説明する喜納和子)
流会へ参加	資料館トピックス……………1
第34回全国平和教育シンポジウムへ参加	『沖縄戦の全学徒隊』発刊
2006年度学芸員実習生受け入れる	ひめゆりガイド講習会を開催
本棚 (32) 『沖縄戦の全女子学徒隊一次世代に遺すもの	国際平和博物館会議参加
それは平和—』 仲程昌徳……………3	日本平和博物館会議加盟
仲宗根政善日記抄 (36) ……………4	2008年度学芸員実習／実習生レポート① (大城香織)
声 ……………6	／実習生レポート② (大城はるな)
資料館ガイド 多目的ホール利用の手引き／案内……………7	「ひとりひとりの戦跡めぐり」開始
◆第39号 2007年5月30日 (説明する宮良ルリ)	「ひめゆり学徒隊のアニメ」原作者決定
資料館トピックス……………1	2009年度 開館20周年記念事業
長編ドキュメンタリー映画「ひめゆり」の上映始まる	相思樹 「顔」が見えるということ 前泊克美……………7
統計に見る2006年度 ……………2	仲宗根政善日記抄 (40) ……………8
本棚 (33) NHK沖縄放送局編『沖縄戦の絵 地上戦 命	ひめゆり学徒隊の戦跡 No.2 兵器廠壕 (普天間朝佳)
の記録』 仲程昌徳……………3	……………11

本棚 (35) 『具志川市史第五巻戦争編 戦時体験Ⅰ・Ⅱ』 仲程昌徳 ……………13	手引き／視聴覚室のご利用について ……………15
声 自分に今、何ができるかが問われている ……………14	◆第45号 2010年5月31日 (説明する大見祥子)
資料館ガイド 資料館ご利用案内／多目的ホール利用の手引き ……………15	資料館トピックス……………1
◆第43号 2009年5月31日 (説明する宮城喜久子)	県外巡回展「ひめゆり平和への祈り [沖縄戦から65年] はじまる」
資料館トピックス……………1	かわら美術館にて内覧会開催
戦後64年目に発見された「ひめゆりの校章」	県外巡回展開催記念イベント「次世代に平和への思いをつなぐトーク&ミニコンサート」
平和講座「女子学徒と沖縄戦」に講師として参加	県外巡回展展示構成
開館20周年記念特別展「ひめゆり学園 (女師・一高女) の歩み」	開館20周年記念誌発行
「一人ひとりの戦跡めぐり」継続中	「証言員一人ひとりの戦跡めぐり」が終了
伊原第一外科壕の学術調査始まる	特別企画展「ひめゆり学園 (女師・一高女) の歩み」終了
20周年記念事業紹介……………4	平和のための博物館・市民ネットワーク 第9回全国交流会参加
相思樹 アレン・ネルソンさんが教えてくれた「戦争の真実」 古賀徳子……………4	2010 (平成22) 年度の事業紹介 ……………8
写真でふりかえる20年～ひめゆり平和祈念資料館のあゆみ～……………5	相思樹 巡回展という経験 普天間朝佳……………8
統計に見る2008年度 ……………7	統計に見る2009年度 ……………9
ひめゆり学徒隊の戦跡 No.3 南風原壕群7・8・9号 (古賀徳子) ……………9	仲宗根政善日記抄 (42) ……………11
仲宗根政善日記抄 (41) ……………11	本棚 (38) 『ひめゆり平和祈念資料館資料集3 ひめゆり学徒隊』 仲程昌徳 ……………13
本棚 (36) 国森康弘著『証言 沖縄戦の日本兵 六〇年の沈黙を超えて』 仲程昌徳 ……………13	声 これからも平和のありがたさを語り継いでいってほしい ……………14
声 亡くなられた方の思いを末長く伝えて… ……………14	資料館ガイド 資料館ご利用案内／多目的ホール利用の手引き／VTR室のご利用について……………15
資料館ガイド 資料館ご利用案内／多目的ホール利用の手引き ……………15	◆第46号 2010年11月30日 (説明する前野喜代)
◆第44号 2009年11月30日 (ひめゆりの塔と資料館)	資料館トピックス……………1
資料館トピックス……………1	県外巡回展「ひめゆり平和への祈り [沖縄戦から65年]」開催中
ひめゆり平和祈念資料館開館20周年を迎える	かわら美術館での講演会
2009年度 ひめゆりの塔慰霊祭、レクイエムコンサート举行	巡回展開催報告 長野県立歴史館
開館20周年記念祝賀会開催	巡回展開催報告 四日市市立博物館
証言員への感謝状贈呈	巡回展開催報告 水戸市立博物館
「元ひめゆり学徒の戦争体験講話」開催	「ひめゆりアニメ・プロジェクト」公募作品展 開催中
開館20周年記念平和講演会を開催	第3回「ひめゆりガイド講習会」開催
平和学習用教材を県内の中・高校へ寄贈	「第14回戦争遺跡保存全国シンポジウム 南風原大会」に参加
20周年記念特別企画展「ひめゆり学園 (女師・一高女) の歩み」開催中	台湾沖縄平和交流の旅
敷地内整備についての説明会開催	相思樹 故郷・三重での巡回展 尾鍋拓美……………6
第2回 ひめゆりガイド講習会開催	ひめゆり研究ノート ②相思樹並木と「別れの曲」 (前泊克美) ……………7
体験講話などの団体予約方法を変更	ひめゆり研究ノート ③コザ孤児院とコザ第4小学校 (古賀徳子) ……………9
2009年度学芸員実習行われる	仲宗根政善日記抄 (43) ……………11
数字でふりかえる20年……………7	本棚 (39) 『ひめゆり平和祈念資料館20周年記念誌 未来へつなぐひめゆりの心』 仲程昌徳 ……………13
塔域の環境整備事業……………9	声 母の思いを織り込んだひめゆりの学友への短歌 神里年子……………14
案内板紹介 ……………11	
本棚 (37) 目取真俊著『眼の奥の森』 仲程昌徳 ……………14	
資料館ガイド 資料館ご利用案内／多目的ホール利用の	

休館のお知らせ	15	資料館ガイド 資料館ご利用案内/多目的ホール利用の手引き/VTR室のご利用について	15
◆第47号 2011年6月1日 (説明する津波古ヒサ)		◆第49号 2012年5月31日 (説明する仲里正子)	
東日本大震災で被災されたみな様へ	1	資料館トピックス	1
当財団が「公益財団法人」に認定 「公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団」に	1	特集『絵本 ひめゆり』	
資料館トピックス	2	『絵本ひめゆり』沖縄タイムス出版文化賞 児童部門賞受賞	
台湾の国立台東生活美学館のみな様が来館		『絵本 ひめゆり』の誕生 島袋淑子	
巡回展開催報告 大阪会場		『絵本 ひめゆり』を振り返って 三田圭介	
初の県外巡回展「ひめゆり 平和への祈り[沖縄戦から65年]」が閉幕		生存者の願いによってつくられた『絵本 ひめゆり』	
開館20周年事業 資料館内外整備工事完了		普天間朝佳	
伊原第三外科壕の実測調査を実施		第18回日本平和博物館会議を当館にて開催	
「解散命令後の戦跡めぐり」実施		水俣病資料館 語り部の会来館	
2011(平成23)年度の事業	6	野田佳彦首相来館	
相思樹 巡回展が語り聞きの場に 仲田晃子	6	平和研究会開催 (第2回~第4回)	
統計に見る2010年度	7	2012(平成24)年度のイベント・事業	8
ひめゆり研究ノート ④沖縄陸軍病院までの動員ルート(尾鍋拓美)	9	相思樹「来館者と資料館とつなぐ感想文」尾鍋拓美	8
仲宗根政善日記抄(44)	11	統計に見る2011年度	9
本棚(40) 吉浜忍 大城和喜 池田榮史 上地克哉 古賀徳子『沖縄陸軍病院南風原壕』仲程昌徳	13	仲宗根政善日記抄(46)	11
声「知らない」うちにとんでもない失敗を犯してしまわないために	14	本棚(42) (文/ひめゆり平和祈念資料館 絵/三田圭介)『絵本 ひめゆり』仲程昌徳	13
資料館ガイド 資料館ご利用案内/多目的ホール利用の手引き/VTR室のご利用について	15	声 国とは人々が幸せに暮らすためのもの	14
◆第48号 2011年11月30日 (説明する上原当美子)		資料館の動き	14
資料館トピックス	1	資料館ガイド 資料館ご利用案内/平和講話・証言ビデオ「平和への祈り」視聴ご案内/VTR室のご利用について	15
台湾 平和交流・視察の旅		◆第50号 2012年11月30日 (体験を語る証言員たち)	
「ひめゆりの乙女たち展」関連資料が寄贈される		資料館だより50号によせて	1
『絵本 ひめゆり』刊行		資料館トピックス	2
元ひめゆり学徒による夏休み戦争体験講話 開催		アニメ「ひめゆり」完成	
第1回平和研究会 開催		夏休み戦争体験講話とアニメ上映会	
学校教育との連携をはかるための教員との意見交換会 開催		日本平和学会シンポジウム参加	
当館にて沖縄県博物館協会秋の研修会 開催		第5回 ひめゆりガイド講習会開催	
第4回ひめゆりガイド講習会 開催		ひめゆり教員向け講習会開催	
AED講習会行われる		平和研究会開催(第5回、第6回)	
2011年度学芸員実習行われる/実習生レポート①		平和のための博物館市民ネットワーク全国交流会参加	
上里幸/実習生レポート② 榎本和代/実習生レポート③ 吉江史扇		資料集5『生き残ったひめゆり学徒たち-収容所から帰郷へ』刊行	
相思樹 遺影とひめゆり学徒生存者 古賀徳子	9	企画展「生き残ったひめゆり学徒たち-収容所から帰郷へ」開催中	
本棚(41) 北村毅『死者たちの戦後誌 沖縄戦跡をめぐる人びとの記憶』仲程昌徳	10	証言員の活動記録撮影	
ひめゆり研究ノート ⑤ひめゆり学徒の証言の「ガス弾」とは何か(古賀徳子)	11	本村ツル理事長 沖縄県功労者として表彰される	
仲宗根政善日記抄(45)	13	特集 資料館だより50号全号目次	10
		本棚(43) ひめゆり平和祈念資料館編『生き残ったひめゆり学徒たち-収容所から帰郷へ』仲程昌徳	18
		資料館ガイド 資料館ご利用案内/平和講話・証言ビデオ「平和への祈り」視聴ご案内/VTR室のご利用について	19



本 棚

元琉球大学教授 仲程昌徳

ひめゆり平和祈念資料館編 『生き残ったひめゆり学徒たち—收容所から帰郷へ—』

解散命令後、壕を出た学徒たちは、砲弾の飛び交う中を右往左往する。辛うじて一命を取り留めたものたちは、米軍の收容施設に送られ、その幾つかを転々とした後、肉親と再会し「第二の人生」を踏み出していく。

学徒たちの戦場での活動については実録、小説、映画等でよく知られているとあっていだろうが、收容所から肉親のもとへ、そして戦後の新しい出発についてはあまり知られてなかったのではなかろうか。

それは伊良波、志喜屋、船越（富名腰）、百名、糸満、野嵩、嘉手納、胡屋、嘉間良、具志川、石川、久志、福山、惣慶、田井等、真喜屋、呉我、天底、半地といった南部から中部そして北部一帯にかけて開設されていた民間收容所、さらには米軍88野戦病院、大里村憲兵隊といった特殊な施設があったことなどをはじめとし、学徒たちが、それぞれに幾つかの施設を渡り歩いていたことやそこでの暮らしなどそうであり、よく知られていなかったことの多さに驚くばかりである。

シラミのこと、衣服のこと、食糧のこと、住まいのことについてもそうだが、学徒たちは、收容所を転々とするなかで精神病棟、米軍病院の炊事場、米軍衛生兵の手伝い、孤児院、米軍のミシン部、住民票作成、米軍の将校クラブ、名簿作り、PX、看護の手伝い、幼稚園や小学校の先生といったような仕事をしてきたこと、收容当初、自暴自棄になっていて、「撃ちてしまん」と声を張り上げて軍歌を歌っていたこと、灯火管制のしかれている中、電気をつけて氣勢を上げ、米兵に怒鳴られるようなことをやっていたこと、二世兵士と西平先生が、戦争について議論していたといったことなど、これまであまり知られてなかったことである。

そして、渡嘉敷良子の一件。学徒たちにとっても、引率教師にとっても、壕に彼女を残したまま退却したことで大きな悔いを残すことになるが、米軍に收容され宜野座病院にいた彼女を見舞い、彼女と文通し、彼女の望みを叶え、彼女の話聞くことのできた方がいたということは、一縷の救いを与えてくれる。

全てに不自由し、不安の多い收容所生活のなかで、

学徒たちに、大きな喜びをもたらしたのがある。文教学校の開校である。当初、1946年1月6日開校、3月16日卒業式といった超短期の教員養成を目的とした学校であったが、学徒たちは心せく思いで收容所からはせ参じ、さまざまな新しい出来事を学び、教員免許を手にしていく。それは、学業半ばで戦場に出された学徒たちが、いかに学業に憧れを抱いていたかがよくわかり感銘深いものがあるが、本書の圧巻は、なんとと言っても、両親との再会シーンであろう。それは、いうまでもなく、単なる対面ではなかった。

娘のあまりの変貌振りに、迎えに来ていた母親が気づかず、通り過ぎてしまったこと、傷ついて普通に歩けない娘の足をさすりながら涙を流す母親、娘の帰りを毎日外に出て待っていた母親、頭髪が抜け落ち、やせ細った孫娘の姿に茫然と立ちすくむ祖母、生還してきた娘を孝行娘だといって喜ぶ親族、娘が帰ってきたことを喜ぶでもなく、口をとぎしてしまった母親、娘の帰ってきたことを喜びながらも、頼りにしていたあと一人の娘をなくしていたことで、涙ぐむ父親、といったさまざまな再会場面がそこには見られる。そしてそのどれもが心を打つように、戦場からの生還は、共に信じがたいものがあつたのである。

両親、親族との再会後学徒たちは、その殆どが就職についていく。沖縄の戦後教育は、彼女たちによって支えられていった面が大きい、それとともに、彼女たちが、平和教育の原動力になっていったことなどについてはあえて付け加えるまでもなからう。

本書は、「資料館だより」に連載されたのを纏めたもので、創刊号から第七号までを「三 手記『学友の遺骨をさがして』」、第十六号から第三十一号までの手記に、新しい手記五本を加えて「二 手記『收容所から帰郷へ』」とし、「一」に「沖縄戦とひめゆり学徒」を設け、理解を助けるための「コラム」を入れ構成されているが、少し、気になることがある。第八号から第十五号まで「証言シリーズ」は中断していたのであろうか。「資料館だより」が、大切な企画を打ち出し、こつこつとその成果を積み重ねてきていることがわかるだけに、欠落の理由を欠いたのは惜しまれる。

資料館ガイド

◆資料館ご利用案内

- ①入館受付 午前9時～午後5時 閉館 午後5時25分
- ②休館日 年中無休
- ③入館料 大人¥300 高校生¥200 小・中学生¥100
団体割引 20名以上 10%引き
- ④交通 那覇から糸満市行きバス⑧9で約30分、「糸満バスターミナル」バス下車。さらに糸満バスターミナルから⑧2⑩7⑩8のバスで約15分、ひめゆりの塔前バス下車。

◆平和講話・証言ビデオ「平和への祈り」視聴ご案内

【講話】 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00

【ビデオ】 9:10 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00

※毎週月曜日・年末年始（12月30日、31日、1月1日～3日）・旧盆（旧暦7月13日～16日）は講話は休みで、ビデオ視聴のみ受け付けます。慰霊祭前後（6月21日～24日）は、ビデオ上映会を行うため、予約はできません。

- 最大収容人員：200人（席）
- 資料館へ入館していただく場合に限らせていただきます。
- ホールは講話・ビデオ以外の目的（セレモニー等）には利用できません。
- 予約時間に遅れた場合、予約状況によってキャンセルさせていただくこともございます。

◆VTR室のご利用について

下記についてビデオを視聴することができます。

- ◇「平和への祈り－ひめゆり学徒隊の証言」（25分）
- ◇「仲宗根政善－浄魂を抱いた生涯」（30分）
- ◇「ひめゆりの戦後」（33分）
- ◇「戦火に消えた21の学園」（26分）



ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第50号

2012（平成24）年11月30日発行

編集・発行 公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館

資料館 ☎ 901-0344 沖縄県糸満市字伊原 671-1 ☎ 098-997-2100

財団事務局 ☎ 902-0067 沖縄県那覇市安里 388-1 ☎ 098-884-1115

URL <http://www.himeyuri.or.jp/>
